



一般社団法人 都市計画コンサルタント協会

協会レビュー 2016 年第 6 号

トピック・コラム 平成 28 年度 都市計画実務発表会が開催されました。

9 月 29 日木曜日に、3 回目の開催となる都市計画実務発表会が開催されました。

この発表会は（公社）日本都市計画学会と（一社）都市計画コンサルタント協会の共催により開催されているものです。当日は、実務に携わったコンサルタント 16 グループから、特定の案件を題材に、概要や業務遂行にあたって工夫した点、得られた成果などが発表されました。同じコンサルタントでありながらも、日頃は他社の業務領域などに触れる機会が少ない中で、貴重な発表を聞くことができるととても有意義に感じました。

平成 27 年に開催された第 2 回実務発表会の席で、進行を担われた日本大学大沢先生から、「来年、是非 3 回目を開催しましょう」との宣言が出されましたが、これが実現した今回は発表の件数も増え、興味深い発表が続き大変盛況でありました。（編集部 津端）



都市計画の実務を担う都市計画コンサルタントと都市計画を専門とする学識者等が都市計画の実務を通じて意見交換を行うことは、我が国の都市計画を進めていくうえで有益なことであると考えられます。また、実務に関する発表を通じて発表者及び参加者の技術力の向上や学会での論文発表等への発展も期待されます。こうした背景のもと、都市計画実務発表会が平成 26 年度にスタートし、今年度が 3 回目の開催となりました。

今年度は、拠点整備、産業、CO₂ 排出削減、観光、地域振興、公共空間の利活用、団地再生、立地適正化など多岐にわたる分野から発表がありました。16 件の発表を 3 セッションに分け、1 セッション（5～6 件）ごとに進行しました。1 件の説明時間は 12 分で、セッションごとに説明を連続して行い、セッションの最後に学識経験者からコメントをいただき、一般参加者からの質疑応答を交えて進行しました。

私（編集部津端）は昨年引き続き側として参加しました。印象に残ったことを 3 点、私的な感想となりますが以下に記します。来年度も興味深い発表を聞けることに期待するとともに、コンサルタント仲間の生の声を聞ける貴重な機会ですので、皆様も是非ご参加下さい。



●感想1：業務の領域は非常に広がっている

「都市計画コンサルタント」という職種で包含できないくらいに、我々が携わっている領域は広がっていることを改めて認識しました。課題に対する解決方法も、都市計画の適用だけでなく、住民参加、情報発信、ICTの活用などが一般化してきていると感じました。

また、跡地利用計画は都市計画コンサルタントとして携わる機会の多い業務ですが、普天間飛行場の跡地利用が検討されていることは、驚きでした。

●感想2：知見を持つことの大切さ

目から鱗が落ちる発表がありました。私の場合、日頃実務に携わっていると、解を探すことだけに捕らわれがちになるのですが、「土地利用にしても基盤整備にしても、計画を作成する手がかりとして、その場所に何が求められているか、どんな活動が発生するか、何を仕掛ければ市民もついてきてくれるかといったアクティビティを読み解くと、方針や考え方に反映され、具体の整備が説得力を増す」という旨の説明がありました。コンサルタントとしての姿勢を再認識する、貴重なお話でした。

●感想3：先生方が発表に求められていること

コメンテーターのある先生から、「業務の概要や成果を淡々と説明するよりも、成果に至ったプロセスなど、インターネットでは知り得ないことを発表してもらえると、学識経験者としても参考になる」という指摘がありました。支障のない範囲にはなりますが、業務が発注されたねらいや苦労話なども発表に散りばめるとよろしいかと思います。来年度発表される方は参考にしてください。

実務発表のテーマと発表者、学識経験者は以下の顔ぶれでした。

実務発表の中から、特に優れた3件について、日本都市計画学会、都市計画コンサルタント協会から表彰が行われました。

会の詳細は、協会ホームページでもご覧いただけます↓

<http://www.toshicon.or.jp/wp/wp-content/uploads/2015/10/jitumuhapyoukaihoukoku.pdf>





■ 実務発表

● 第一セッション

タイトル	氏名(所属)
準工業地域における操業環境と住環境の調和(横浜市都筑区東山田準工業地域まちづくり協定)	宮本隆介((株)計画技術研究所)
産金学官民連携をかたちにする新しい企業立地ビジョンづくり～幸田町企業立地マスタープラン策定業務～	丸山昇((株)オオバ)
普天間飛行場跡地における新しいまちづくりとコミュニティの再生・創生	今村玲子((株)URリンケージ)
旧庁舎等を活用して市民活動とともに地域を育てるまちづくり	若林康彦((株)ユーマック)
スマートICの整備に伴う企業誘致と社宅としての空き家活用の検討	白戸将吾(玉野総合コンサルタント(株))
「CO2 排出ゼロ都市」を宣言した平戸市の地域づくりに関する取組	河野有吾((株)エックス都市研究所)

● 第二セッション

タイトル	氏名(所属)
弘前市におけるスマート観光の推進に向けた取り組み(スマートグラス観光案内システムに関する実証研究)	小浦洋生((株)コムテック地域工学研究所)
愛媛県におけるサイクリングパラダイス実現に向けた取り組み事例の紹介	栗栖嵩(パシフィックコンサルタンツ(株))
「稲子地区(中山間地域)魅力アップ創出構想」の策定	松浦克之((株)千代田コンサルタント)
南伊豆町における生涯活躍のまちづくりに向けて	小野崎研郎、小松明子(パシフィックコンサルタンツ(株))
まちの価値を高めるための新たな公共空間利活用方策の試み	西尾京介((株)日建設計総合研究所)

● 第三セッション

タイトル	氏名(所属)
みさと団地における地域連携の試み	菊池清美((株)URリンケージ)
千里ニュータウン佐竹台地区における持続可能な住環境保全の仕組みづくり	坂井信行((株)地域計画建築研究所)
都心再整備にあわせたスマートエネルギーインフラ事業の実現に向けて	大久保岳史((株)日建設計総合研究所)
人口減少・高齢化時代における都市・地域計画について～立地適正化計画等の検討実績をもとに～	荒井祥郎((一財)計量計画研究所)
大きな人口減少が見られない都市での立地適正化計画の検討について	山本孝、牧田博之((株)国際開発コンサルタンツ)



■ コメンテーター

● 第一セッション

木村優介先生（京都大学助教） 中村英夫先生（日本大学教授）

● 第二セッション

阿部貴弘先生（日本大学准教授） 伊藤香織先生（東京理科大学教授）

● 第三セッション

伊藤弘先生（筑波大学准教授） 長田哲平先生（宇都宮大学助教）

● 進行

大沢昌玄先生（日本大学准教授）

■ 表彰

● 都市計画学会会長賞

（株）コムテック地域工学研究所 小浦 洋生 氏

（株）地域計画建築研究所 坂井 信行 氏

● 都市計画コンサルタント協会会長賞

（株）日建設計総合研究所 西尾 京介 氏

協会レビュー 2016年第6号（平成28年11月発行）

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目一丁目一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久